ともしび
闘灯
BUNKAI NEWS
7月30日（金曜日）
発行責任　石橋康裕
編集責任　教宣部
仲間の団結の温もりを大切に闘いの強化

横芝駅再発防止から設置された役に立たない「見守りカメラ」

相次ぐ一人泊り駅での救急搬送 社員の生命を守る事を最優先に

昨年の横芝駅における一人泊り勤務駅社員の緊急搬送を受け会社は社員を守るために「見守りカメラ」を設置しました。しかし、このカメラは、誰が見ても・誰が考えても具体的に効果があると思われる代物ではないのです。

一人勤務社員が一時間近く全く動かない状態が続くと警戒音（アラーム）が鳴り状況を確認するシステムのようです。しかし一時間も動かない状況では多くの場合手遅れというのが、現実です。

「見守りカメラ」ではなく「見捨てるカメラ」ではないか？と揶揄されている代物です。

6月に発生した緊急搬送の実態について会社は情報の共有化について全くと言っていいほど消極的で私たちの指摘でようやく重い腰を上げて情報を提供するというお粗末な対応です。

社員の生命を守る事を求めていきます。

6月に一人泊り駅で緊急搬送される事象が2件発生しています。

一人は脳内出血です。

私たちはかねてよりエルダー社員以上の一人泊り勤務は健康上の観点から危険でありその解消を会社に求めてきました。

しかし、会社はコスト削減が最優先されるとして私たちの切実な要求に対して冷ややかな対応に終始してきました。

昨年の横芝駅における一人泊り勤務駅社員の緊急搬送を受け会社は社員を守るために「見守りカメラ」を設置しました。

しかし、このカメラは、誰が見ても・誰が考えても具体的に効果があると思われる代物ではないのです。

一人勤務社員が一時間近く全く動かない状態が続くと警戒音（アラーム）が鳴

闘うネコ伝説 ～第5章～

JRを支配する八犬士たちは最近、人々へのサービスを減らしてばかりいるらしい。

「持続可能な鉄道経営のためには」と言ってはいるが、「本当は最近大流行の「疫病」の影響を受けて利用者が電車を乗らなくなり、売り上げが大きく減ってしまったからだ。

ムサマルは、駅に調査に出かけてみてびっくりした。

今まで当たり前であったはずの、駅の時刻表がなくなっているのだ。

「大変だニャ！」

慌ててムサマルは、仲間のケヨリン・ウチニャン・ソトニャン・クルリン・ナカニャン・ソウニャンにLINEを送った。すると、「実は千葉の全ての線区で、困ったことになってるニャ・・・」どうやらウチニャン・ソウニャン・ケヨリンがいつも使う駅では切符を買う券売機や、改札の通路まで減らされているらしい。

駅では今まで以上に長ーい列ができていて、「疫病」がかえって拡がるのでは？と皆も心配そうである。

けれどもJRは「疫病」の対策に全力で取り組んでいます。とアピールしています。

人々は駅の急激な変化に戸惑いを感じているが、八犬士は利用者のことは気にしていないようだ。

急激な変化と言えば「3月に実施されたダイヤ改正で、運転士さん一人だけの電車が増えてるニャ」とナカニャンが言っていたはずだ。ワンマン運転の問題は、いったいどうなっているのだろうか・・・？

会社の身勝手なコスト削減を許さない！ 券売機・改札機の撤去は千葉支社だけ

昨年の大幅な赤字を受けて今年は何としても黒字化を図るとして自動券売機や自動改札機の削減を強行してコロナ禍の中で「密」を作り出す施策を矢継ぎ早に行ってきています。

今回の自動券売機や自動改札機の削減は、JR東日本としての共通の対策ではなく千葉支社だけの独自の取り組みとなっています。

何故に千葉支社だけ暴走しなければならないのか？しっかり説明が必要です。